

学校名 羽生市立川俣小学校

所在地 埼玉県羽生市本川俣6 2 9 番地

電話 048-561-1006

1 本校の概要

本校は、児童数 106 名、7 学級の小規模校である。明治 19 年に開校した歴史と伝統のある学校で、江戸時代から、地区の平安を祈りながら家々を回った「まわり地蔵」が 260 年以上も続いている地域である。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ 家庭や地域との連携
- ・ その他（一人一台端末の活用）

(2) 実践の概要

ア 読書月間～給食センターとの連携～

- ・ 羽生市の学校給食では、読書の秋に合わせて、物語給食メニュー献立（おまめのスープ『くまのがっこう』、りっちゃんの元気サラダ『サラダで元気』）が提供された。本校では、メニューの元になった絵本の読み聞かせを図書委員が行い、児童の読書や給食への関心を高めた。



「図書委員による読み聞かせ」



「物語給食メニュー」

イ 公民館との連携

- ・ 子供読書の日に合わせて、川俣公民館では「本のしおり作り」が開催された。児童も多数参加し、オリジナルしおりを作成した。



「作成の様子」



「作成したしおり」

ウ 家庭との連携

- ・ 毎月、月初めの金・土・日曜日の3日間に「家読」を実施している。家族みんなで読書をするこ

とで家族のコミュニケーションを深めることをねらいとしている。4つのスタイル（①大人が子供に本を読んで聞かせる。②子供が大人に本を読んで聞かせる。③大人と子供が、交互に読む。④会話を家族で役割分担して読む。）から選び、取り組んでいる。



「家読ファイルの表紙」

エ 郷土資料の活用

- ・ 総合的な学習の時間（郷土学習）において、羽生市で制作された郷土資料『羽生昔がたり』を活用して調べ学習をしている。
- ・ 学校応援団の方が「まわり地蔵」の紙芝居を作成し、読み聞かせを行っている。



「まわり地蔵の紙芝居」



『羽生昔がたり』

オ 一人一台端末の活用

- ・ 読書活動の一つとして、電子書籍やデジタル新聞を活用している。児童は、一人一台端末 Chromebook を使用し、デジタル新聞や L-Gate から閲覧できる『学研まんがひみつ文庫』等を読んでいる。児童は、朝の読書タイムや週末の家庭読書でも活用し、楽しんでいる。



「児童の読書の様子」

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 郷土資料や電子書籍など、児童が触れる情報メディアの種類を増やし、図書に関連した活動を行うことで、児童の興味の幅を広げることができた。

(2) 課題

- ・ 児童が自分から読書に親しむ態度を身に付けられるようにする。
- ・ 情報リテラシー教育と、安心・信頼できるデジタルコンテンツの提供。

(3) おわりに

今後も児童が読書に親しむ環境を整えていきたい。